

愛する故郷 小笠原

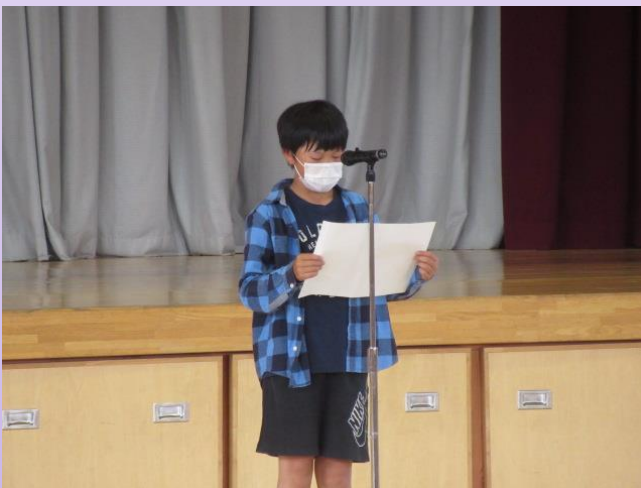


令和5年8月 文責：校長 佐野紳二

2学期が始まりました

2学期が始まり、学校に子どもたちの元気な笑顔が戻ってきました。夏休み中は地域での子どもたちへのご指導、ありがとうございました。2学期も本校の教育活動へのご理解とご協力をお願いいたします。

始業式の日（8月24日）のようす



以前にもお伝えした通り、本校は今年創立150周年を迎えました。1学期の学校通信では、創立150周年に関連して、小笠原小学校の歴史について書かせていただきました。ホームページでも閲覧は可能ですが、せっかくの機会ですので、地域の皆様にもご覧いただければと思い、回覧をさせていただくことにしました。文字や写真が小さく見づらいところがあると思いますが、ご容赦ください。

あかるく かしこく たくましく

令和5年4月12日 No. 2 文責：校長 佐野紳二

小笠原小学校は今年、創立150周年を迎えます

数年前（私が教頭として本校に勤務している頃）から、「小笠原小学校は間もなく150周年を迎えるんだよ」ということは伺っていましたが、いよいよ今年、1873年の開校から150年目の年を迎えます。



150年前と言ってもなかなかピンとこない人も多いのではないのでしょうか。私自身、150年前は「歴史の教科書の中の世界」なので、なかなか実感することが難しいです。そこで、今から150年前の1873年は、いったいどんな年だったのか、ちょっと調べてみました。気になることがあるとすぐに調べてみたくなる性分です。学校通信でも、自分が気になったことを話題として取り上げさせていただくことが多くあると思いますので、お付き合いください。

1873（明治6）年とは？

- ・このころは1853（嘉永6）年の黒船来航に始まり、1867（明治元）年の大政奉還など、江戸時代から明治時代へと急速に時代が移り変わっていく時期で、1869年には大政奉還、1971年には廃藩置県がありました。甲斐府が甲府県を経て山梨県になったのは1867年、巨摩郡小笠原村・桃園村・山寺村が明穂（あけほ）村になったのは1875年のことです。（明穂村は昭和11年に小笠原町に、小笠原町は昭和29年に榊村・野之瀬村と合併して榊形町になりました）
- ・前年の1872年の9月に発布された学制により、1873年1月に学制に基づく日本最初の小学校・東京師範学校附属小学校ができました。小笠原小学校もこの学制の発布に伴いこの地域につくられたようです。
- ・1873年は、いわゆる「明治維新」の真っただ中にあり、1月10日には徴兵令が、7月には地租改正法が公布されました。また、キリスト教の禁止令や目安箱が廃止されたり、祝祭日休暇が始まったり、日本最初の郵便はがきが発売されたのもこの年です。
- ・旧暦が廃止され、カレンダーが今と同じ月日になったのもこの年からです。



このように、時代が江戸から明治になり、急速な近代化が進む日本の中で小笠原小学校は誕生しました。今から50年前の1973年に作成された本校の100年史を見ると、小笠原小学校は明治6年3月25日に、久成寺を借用して開校し、同年10月25日に「区内（小笠原・山寺・平岡・曲輪田・高尾・上宮地・桃園）小学校に興隆院を充て、名称を小笠原学校と定め開校」と記されていました。（本校の沿革誌による）

今年は創立150周年を迎えた記念すべき年です。本校の歴史については、これからも少しずつ調べて学校通信等で紹介できればと思っています。（右の写真は現在の久成寺）



明治39年の校舎（小笠原尋常小学校）



あかるく かしこく たくましく

令和5年5月2日 No. 6 文責：校長 佐野紳二

小笠原小学校の歴史② 小笠原小学校の校歌

創立 150 周年を迎える小笠原小学校の歴史について調べるシリーズ（いつの間にかシリーズ化していますが…）第2弾！ということで、今回は本校の校歌について調べてみました。

小笠原小学校校歌

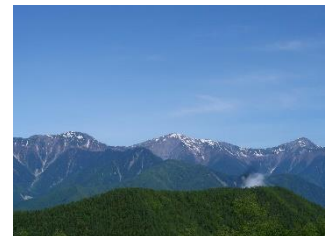
- 1 山は招くよ 櫛形の
春の芽ばえに映りはえて
町なみつづく 小笠原
たのし床しい学びの舎
- 2 寄せる文化の 波の秀に
われらいそしむ明け暮れを
友愛かたく 手をとりにて
明日の日本をきずこうよ
- 3 ひびけ歌声 高らかに
とびけ世界のはてまでも
愛する故郷 小笠原
希望あふれる わが母校

本校の校歌は昭和 27 年 10 月 16 日に完成し、披露されたという記録が残っています。前回は紹介させていただいた本校の 100 周年記念誌を見ると、この日は運動会が行われ、その当日に校歌が披露されたそうです。作詞は向井房恵（ふさはる）さん、作曲は平井康三郎さんで、校歌制定以来 70 年の長きにわたって親しまれています。

私も教頭・校長で赴任した学校の他の学校の校歌は在任期間が短かったこともあり、歌詞を見ないと歌えませんが、小笠原小学校の校歌はしっかり歌えます！70 年前に作られた校歌なので、ちょっと難しい言葉も使われていたりします。なので、自分なりに本校の校歌に歌われていることをちょっと調べてみました。

多くの校歌がそうであるように、本校の校歌も 1 番から 3 番まであります。

「山は招くよ」で始まる 1 番は、この地域に様子について歌われています。自然の美しさだけでなく「町なみつづく」という歌詞が、小笠原という地域をよく表しているように思います。



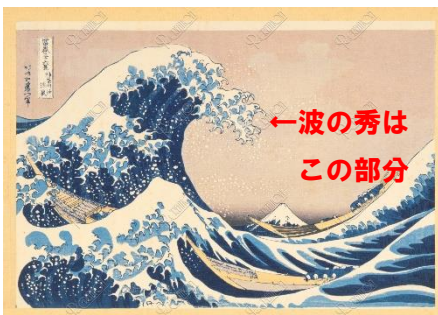
「ひびけ歌声」で始まる 3 番は、未来や世界に向かっていく姿が歌われています。（伴奏譜を見ると、この 3 番だけちょっと豪華な伴奏になっています。1・2 番と同じ伴奏で弾くことも多いようです）

ちょっと難しいのが、2 番の前半「波の秀」や「われらいそしむ明け暮れを」の部分でしょうか。なので、一語ずつ調べてみました。

波の秀の「秀」は「外形が人目につきやすく突き出ていること。」という意味なので、小笠原の地に最先端の素晴らしい文化の波が訪れている様子を歌っているように思われます。そして、その素晴らしい文化に「われらいそしむ明け暮れを＝絶えず熱心に勤め励む」ということなので、子どもたちが学習に熱心に取り組む様子を歌っていると考えてよいのではないのでしょうか。

なので、2 番の歌詞を今風に訳してみると「一生懸命勉強し、みんなで力を合わせて明日の日本を創っていこう」ということになるのかな、と思います。

かなり意識をしています。「そうじゃないだろう」というご意見がありましたら是非お聞かせください。



校歌の作詞・作曲者について

本校の校歌を作詞した向井房恵（ふさはる）さんは今の北杜市高根町の出身で、広島や山梨の師範学校の先生をされたあと谷村工商校長、甲府市助役、県の教育委員長などさまざまな役職を歴任し、県の教育功労者となった方です。本校をはじめ数多くの学校（貢川小や玉諸小・双葉西小・明見小・ろう学校など）の校歌の作詞をされています。

作曲の平井康三郎さんは高知県の出身で、東京音楽学校（今の東京芸術大）を卒業し、「スキー」や「とんぼのめがね」などの童謡や数多くの管弦楽・室内楽などの作曲をされた方です。千葉大学や茨城大学などの大学や日本全国の小・中学校、高校の校歌（山梨では梨大附属中や甲府西高など）も作曲しています。



向井さん、平井さんともに当時はとても人気がある作詞家・作曲家だったようです。本校にとってはお二人とも大切な方ですが、平井さんは WIKI ペディアに掲載されているくらい、日本の作曲家の中でもかなり有名な方です。

校歌ができる前にも小笠原小学校の歌があった

同じくらいの歴史を持つ学校の校歌を見てみると、本校の校歌よりも前に作られたものが少なくありません。本校では開校以来、約 80 年間、校歌がなかったわけですが、これにはどうやら理由があり、校歌制定以前は「運動会の歌」が校歌の代わりに歌われていたようです。この「運動会の歌」は 1 番から 6 番までありますが、1 番の歌詞を見ると「残んの暑さ 何時しかに／薄らぎ去りて 心地よき／秋晴朗の 気は満ちて／意気冲天の 時は来ぬ」と、口語調の言葉が使われています。

校歌が制定されて以来、口語調の「運動会の歌」は歌われる機会が減ってしまったようですが、（本校が母校のベテラン教師に聞いても、「運動会の歌」は記憶にないとのことでした）創立 150 年を迎えた今年、何らかの形で「運動会の歌」もみなさんに紹介できればいいなあ…と思っています。

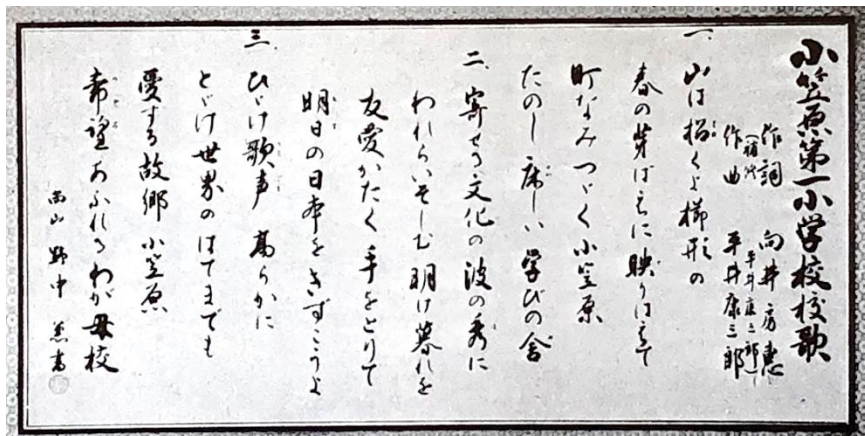
自分の出身校の校歌にはそれぞれ思い入れがあり、学校生活の思い出とともにいつになっても口ずさむことができる大切な歌なのだと思います。私が小学校を卒業したのは今から 45 年以上前になりますが、こんな私でも、今でも母校（小学校）の校歌は歌詞を見なくても 3 番まで歌えます。

中学校・高校の校歌も 1 番はバッチリ！ 2 番以降はちょっと自信がないかも…

出身大学には校歌ではなく、学生歌があるようですが、歌った記憶は…

また、これまでに教員として勤務した学校は 9 校ほどありますが、歌詞を見ずに歌えるのは 2 校くらいかも…

小笠原小学校の校歌は覚えやすく、曲調も明るく、とてもステキな校歌だと思います。ぜひ、子どもたちにも大切にしてほしいと思いますし、今後も 200 周年、250 周年…とずっと歌い継がれていってほしいと願っています。



小笠原小学校には、古い書や石碑看板などがたくさん残されていますが、この校歌の書はどうやら現在は残っていないようです。

次回、小笠原小学校の歴史を調べるシリーズ第 3 弾では、学校に残っている書や石碑、像について調べてみたいと思っています。

予定が変更になる可能性もあり?!

あかるく かしこく たくましく

令和5年5月9日 No. 7 文責：校長 佐野紳二

小笠原小学校の歴史③ 敷地内に残る石碑や像について

創立 150 周年を迎える小笠原小学校の歴史について調べるシリーズ第3弾は、本校に残されている石碑や像について調べてみました。



校門に入って玄関前の植え込みの中には、2つの像（体育館前）と石碑が3つ（体育館前と東側）残されています。

まず東側の石碑ですが、これは見えてすぐに分かるように、本校の創立 100 周年を記念してつくられた石碑です。表面には「創立 100 周年記念の碑」の文字とともに本校の校訓「あかるく かしこく たくましく」と、校旗に書かれている「質実剛健」が、裏面には本校の沿革が刻まれています。



次に、体育館前にある石碑と像です。

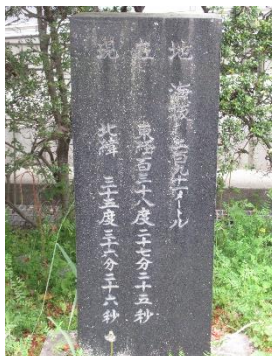
手前側にある像には「健康の像」という名前が刻まれています。昭和 55 年度の卒業生が寄贈してくださったもので、ボールを持った女の子と男の子が肩を組んでいる像です。本校は昭和 56 年に体育優良校として全国表彰を受けているので、そのことを記念してつくられた石碑ではないかと思われます。

当時の卒業生の方、ぜひ情報をお寄せください。

その隣にあるのが、本校の校歌が刻まれた石碑です。昭和 54 年度の卒業生が寄贈してくださったもののようです。

奥の方にある胸像は、水谷鍬也さん（長崎県生まれの彫刻家）の作で、小笠原小学校の第 11 代校長、鈴木茂治先生の像だと記されています。鈴木先生は明治 41 年の 5 月から昭和 8 年 8 月まで、25 年間 (!) にわたって本校の校長先生を務められたという記録が残っており（もちろん歴代最長です）、その間には現在の場所に学校が移ったり、校旗が制作されたりと、本校の発展に特に大きな尽力をされた校長先生のようなようです。たびたび出てくる本校の百年誌によると、この像は昭和 9 年 3 月に除幕式が行われ、昭和 27 年に再建されたそうです。

一番奥には、昭和 46 年に作られた本校の現在地（海拔 291 メートル、東経 138 度 27 分 25 秒・北緯 35 度 36 分 26 秒）が刻まれた石碑があります。



体育館に向かって立つと、右から順に、「健康の像 ⇒ 校歌の石碑 ⇒ 鈴木先生の胸像 ⇒ 現在地の石碑」という順で並んでいます。来校した折にはぜひご覧ください。

足を校庭に向けてみると、校庭西側には2つの石碑があることに気づかれると思います。

右側の石碑は本校に残っている石碑や像の中でも最も古いもので、「学校建築記念碑」という文字が刻まれています。石碑の裏面には「大正14年4月3日 明穂村第1区建設」と記されているので、大正14年に小笠原尋常高等小学校が高等科併置を廃止し、小笠原尋常小学校となった際に、学校が建築された記念につくられたものだと思います。



「学校建築記念碑」の左側には、「小笠原長清公館跡」の石碑があります。本校の敷地には、小笠原長清公の館があったとされており、このことについて記した石碑です。建立されたのは比較的新しく、石碑の裏側に、「昭和62年7月」という日付が刻まれています。さらに石碑の左面にはこの場所に小笠原長清公の館があったことについて、以下のように記されています。



小笠原長清公（1162-1242年）は、加賀美遠光公の二男として生まれ、小笠原に館を構え、小笠原氏の祖となった。この附近の地名は、御所庭と呼ばれ、甲斐国志に「御所ノ庭小笠原村 村ノ西ニ在リ松樹鬱蒼方四十間許リノ間地ナリ相伝フ小笠原長清居宅ノ南庭ニシテ（以下略）」と記されている。

楡形町指定文化財（史跡）

昭和62年7月1日

小笠原小学校の歴史に関わるような石碑や像は、ここに紹介したものになります。私も小笠原小学校の勤務は足掛け8年目になりますが、一つ一つの石碑や像に目を向けてみる機会はこれまであまりなかったので、とても興味深く見る事ができました。みなさんも、ぜひ次に学校に足を運んでいただいた折には、子どもたちの姿とともに、これらの石碑や像にもちょっと目を向けていただければと思います。

おまけの話

実は、今回紹介させていただいたもの以外にも、本校の敷地内には歴史を感じることができるものがいくつか残されています。本校の卒業生ならだれでも知っているようなものばかりですが、紹介させていただきます。

- ・中庭にある日時計（中心に棒状のものを立てて使うもののようです）
- ・中庭のトーテムポール（昭58和年の卒業生の卒業制作だそうです）
- ・正門の門柱（「昭和4年11月3日竣功」と記されています）
- ・1号館とプールの間にある郵便ポスト（かなり気合の入った古さです）
- ・石で作られた、けもの足型（今は掘り起こされているようですが）



*これらについては、前校長先生がR2年度5月の「日々のようす」で、「小笠原カルトクイズ」と称して、ホームページ上で紹介してくれました。学校が臨時休校中の記事でした。

次号の学校通信は、本校の歴史以外のことについて書かせていただく予定です。本校の歴史を調べるシリーズはちょっとお休みをいただき（でも、まだ続きます）、第4弾では、本校に残されている書について紹介できればと思っています。

あかるく かしこく たくましく

令和5年6月28日 No. 15 文責：校長 佐野紳二

小笠原小学校の歴史④ 小笠原小学校に残されている・大切にされている言葉

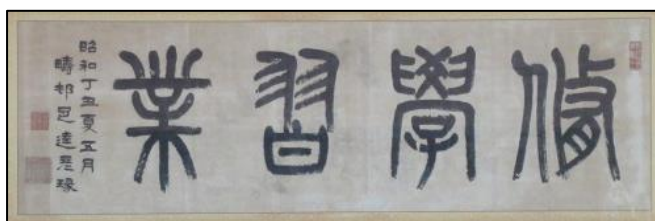
150周年を迎える本校には、これまでに学校に寄せられた書がいくつか残されています。中には時代の流れとともに破損してしまったり、焼失してしまったりしたものもあるようですが、シリーズ第4弾の今日は、現在でも学校に残っているいくつかの言葉について見ていきたいと思えます。

脩學習業（修学習業・しゅうがくしゅうぎょう）

本校の玄関に入って右手に飾られている大きな書が、この「脩學習業」です。

「修學習業」という言葉は、1890（明治23）年に明治天皇が近代日本の教育方針として下した「教育勅語」の中にある言葉で、「修学」は「学校に通ったり、先生についたりして、知識を学び習って身につける」こと、「習業」は「学問や技芸などを習う」ことを表し、2つを合わせて「勉学に励み職業を身につけよう」という意味になります。

なお、本校の玄関にある「脩學習業」の横にある説明書きには、この書を揮毫した足達彦作氏についての説明が書かれています。



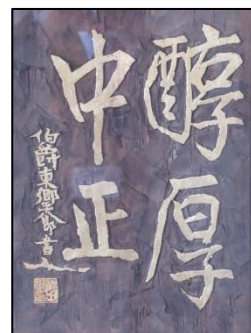
醇厚中正（じゅんこうちゅうせい）・質実剛健（しつじつごうけん）

校長室の机の後ろには、「醇厚中正」と「質実剛健」の2つの言葉のレリーフが飾られています。この言葉は、ともに本校の校旗の表面と裏面に書かれている言葉で、東郷平八郎伯爵によって書かれたものであることは割と有名な話です。この校旗がつくられたのは、前回の小笠原小学校の歴史シリーズ第3弾で紹介した、第11代校長・鈴木茂治先生のとときです。

醇厚中正

醇厚は、人情の厚いことの意。中正は、かたよらず公正であることの意。

この言葉は、大正12年に関東地方を襲った関東大震災の直後、1923（大正12）年に大正天皇から出された『国民精神作興詔書（こくみんせいしんさっこうしょうしょ）』という詔書の中にある言葉です。この勅語は、地震やそれに伴う火災による首都の破壊や増大する社会不安を契機に、国民に対して、災害後の国力回復や道徳振興を呼びかけたもので、この詔の一節に「醇厚中正」という二つの言葉を一つにした四字熟語があり、当時、復興のスローガンの一つとして多くの人がこの言葉を引用していたそうです。



「防災意識を育てる WEB マガジン」より <https://shisokuyubi.com/bousai-kakugen/>

質実剛健

中身が充実して飾り気がなく、心身ともに強くたくましいさまを表す言葉です。「質」は質朴、「実」は誠実の意で、「質実」は飾り気がなくまじめなこと、「剛健」は心やからだが強くて逞しいことをそれぞれ意味しています。



県内の甲府工業高校・甲府商業高校・都留高校などいくつかの高校の校訓となっています。

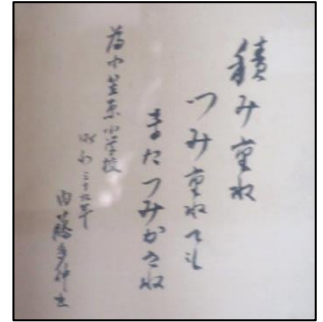
「goo 辞書」 <https://dictionary.goo.ne.jp/>

「修学習業」「醇厚中正」「質実剛健」の3つの言葉以外にも、教育勅語の中の一節「知能啓發徳器成就（知能を啓発し徳器を成就する）」の書が寄贈され、校内に飾られていたという記録が本校の100周年記念誌の中に残されています。（現在、この書は残っていないようです）

これらの言葉（四字熟語）は、どれも明治維新後の日本で使われた言葉です。当時の「新しい日本を創っていくんだ！」という気概がこれらの言葉には込められており、当時はそうした人間の育成を本校も目指していたことが推測できます。

積み重ね つみ重ねても またつみかさね

校長室の「醇厚中正」「質実剛健」のレリーフの隣には、東京タワーの設計者、内藤多仲博士の直筆による「積み重ね つみ重ねても またつみかさね」の色紙があります。内藤多仲博士はお隣の楡形北小学区（曲輪田地区）出身で、「耐震構造の父」として知られています。この言葉は多仲博士が晩年に残した言葉だと言われており、真摯に努力を積み重ねることの大切さを教えてくれる言葉として、多くの人に感銘を与えています。この言葉のわたしなりの解釈は、昨年末、前任校の楡形北小学校の学校通信に書かせていただきました。もし、興味を持っていただけた方は楡形北小学校のホームページ「学校だより>令和4年度>「積み重ね つみ重ねても またつみかさね」>学校通信 No.57」をご覧ください。



「自分を大切に、他者を大切に」子どもの育成*

本校の現在の学校教育目標『自分を大切に、他者を大切に』子どもの育成は、平成11年度、当時の校長先生であった相原千里先生が定めた目標です。私が教頭時代、当時、学校評議員を務められていた相原先生の話のを伺う機会があり、そこで、小笠原流礼法の考え方を教育目標に取り入れたとおっしゃっていた記憶があります。

また、現在、校訓となっている「あかるく かしこく たくましく」は、昭和49年2月に除幕式が行われた100周年記念の碑にも刻まれており、そこには「『あかるく かしこく たくましく』は、本校の教育目標から要約した校訓」という説明がされています。100周年を迎える前から本校では親しまれていた言葉のようです。この「あかるく かしこく たくましく」は昭和50～53年のいずれかの時期に学校教育目標となり（はっきりした資料が残っていないので、これ以上の特定ができませんでした）、それ以来、平成11年に現在の学校教育目標が定められるまでの約25年間、本校の学校教育目標となっていました。



* 玄関を入ってすぐの位置には、校訓の「あかるく かしこく たくましく」と学校教育目標の「自分を大切に、他者を大切に」子どもの育成の掲示物があります。掲示物の学校教育目標は「子どもの育成」ではなく「児童の育成」になっていますが、さまざまな文書の中で「児童」と「子ども」の混在を避けるため、数年前に前飯久保校長先生が「子どもの育成」に統一することを決め、現在に至っています。

それぞれの言葉にはその言葉を送った人の「思い・願い」が込められています。小笠原小学校の150年の歴史の中で、学校に求められるものが大きく変化したことが、今回採り上げたいくつかの言葉を見ても分かるような気がします。前飯久保校長先生が使っていた「カッコイイ」や、私が子どもたちに呼びかけている「スマイル」にも、それぞれの願いがあります。

「スマイル」が150年後にも残る言葉だとは考えていませんが、今の小笠原小学校が目指している方向を示す言葉として、子どもたちだけでなく保護者の皆様や地域の皆様にも親しんでいただければ…と思っています。



あかるく かしこく たくましく

令和5年7月13日 No. 17 文責：校長 佐野紳二

小笠原小学校の歴史⑤ 校名と校舎の変遷

小笠原小学校の歴史を探るシリーズ第5弾。今日は校名と校舎の変遷について調べてみました。

校名はどのように変わったか

明治6年、開校した当時の本校は「**小笠原学校**」という名称でした。当時は小笠原と山寺だけでなく、平岡、曲輪田、高尾、上宮地、桃園の各地区の子どもたちが通う学校だったという記録が残っています。

以後、本校の校名は、時代とともに以下のように変わってきました。

明治06年10月25日	小笠原学校
明治08年05月20日	上宮地に分校
明治20年04月	小笠原学校・桃園学校・榺学校・曲輪田分校を合併し、三菱尋常小学校、曲輪田分校を設置
明治22年10月02日	明徳尋常小学校
明治25年05月	本村第二区（桃園）と分離し、 小笠原尋常小学校
明治25年07月11日	明徳村他二ヶ村（榺、野之瀬）組合高等小学校を設置
明治31年07月07日	高等科を併置、小笠原尋常高等小学校
大正14年04月27日	高等科併置を廃止、小笠原尋常小学校
大正14年05月01日	明徳高等小学校設置
昭和11年07月01日	明徳高等小学校が小笠原高等小学校に
昭和16年04月01日	小笠原国民学校
昭和21年04月15日	小笠原青年学校開校式
昭和22年03月31日	小笠原小学校 、小笠原中学校と改称
昭和23年04月01日	小笠原小学校、小笠原中学校
昭和24年11月02日	小笠原第一小学校
昭和34年09月01日	榺形町立 小笠原小学校
平成15年04月01日	南アルプス市立小笠原小学校
令和04年04月01日	小中一貫校南アルプス市立小笠原小学校



途中、高等小学校（現在の中学校）が設置されたことにより「高等」が名称に付く時代がありました。そのことを除くと、本校の名称は

**小笠原学校 → 明徳尋常小学校 → 小笠原尋常小学校 → 小笠原国民学校 →
小笠原小学校 → 小笠原第一小学校 → 小笠原小学校**

と変わってきました。

本校の玄関には、「小笠原尋常高等小学校」「小笠原第一小学校」「小笠原小学校（2枚）」の、校名を記した4枚の看板が残されています。上の写真がその看板ですが、写真だとかなり見づらいので、ぜひ次に学校にきたときにじっくりとご覧になっていただければと思います。

昔の校舎・今の校舎

開校当時、本校は久成寺を仮用して学校としていたことが記録に残されています。(明治6年3月25日から同年10月24日)その後、明治29年10月までの23年間は、興隆院を仮用して学校としていました。

本校の校舎が最初に建てられたのは明治29年10月で、10月17日に「興隆院の西側に新校舎完成、開校式挙行」という記録が残されています。その時に建てられた木造平屋の校舎が右の写真の校舎で、本校の最初の校舎ということになります。この写真も玄関入ってすぐのガラスケースの中に飾られています。ぜひ一度、ご覧になってください。

小笠原小学校が現在の場所に建てられたのは、大正14年です。その時の記録には「本校は従来、小笠原西畑にあったが、地域が狭く、校舎も傷んできて教育上の不便があり、また、年々増加する児童を収容することができなくなってきたので、御所庭の地*を選定し、移転することとなった」という旨の記録が残されています。その後、校舎の増築や講堂の建設などが続き、昭和30年代には講堂、中校舎、西校舎、プールなど、多くの教室と施設がある学校になっていきました。

*この記録の中の「御所庭」とは、本校が小笠原長清の居所であったことを指していると思われます。

3度目の新校舎完成は昭和39年9月でした。現在の校舎のひとつ前の校舎で、おじいちゃん・おばあちゃんの世代の方にとっては「懐かしい」と感じるのがこの校舎だと思います。昭和41年にはプールが、昭和47年には北校舎(現在の3号館)が、昭和50年には体育館が完成し、旧校舎から新校舎へ徐々に移り変わっていきました。

*私は楡形出身ではないので、この頃の小笠原小の様子には詳しくありません。前校長の飯久保先生は小笠原小の出身なので、この校舎の頃本校に通っていました。ホームページ「校長のつぶやき」に、当時の小笠原小の様子が詳しく語られています。

平成2年には現在の校舎が完成しました。今の校舎については改めて説明に必要はないと思いますが、早いものでこの校舎が完成してからすでに33年の月日が経過しています。

写真は上から順に、

- ①明治29年完成の校舎
 - ②大正14年完成の校舎
 - ③昭和4年完成の講堂
 - ④昭和39年完成の校舎
 - ⑤平成2年完成の現在の校舎
- となります。

